小・中学校再編にかかる地区意見交換会（米水津会場）

１ 日時　　令和８年１０月１日（木）　１９時～２０時２０分

２ 場所　　米水津地域コミュニティセンター

３ 参加者　　４３人

４ 事務局　　都留教育長、神崎教育部長、御手洗教育総務課長、吉田学校教育課長
　　教育総務課職員　４人、学校教育課職員　２人

５ 次第

（１）開会

（２）教育長あいさつ

（３）教育部長あいさつ

（４）佐伯市立小・中学校再編（案）について
- 今回の説明会の趣旨とこれまでの経過
- 小・中学生の現状と今後の見通し
- 学校の再編に関するアンケート調査結果について
- 学校再編することのメリット・デメリット
- 適正な学校規模の考え方
- 小・中学校再編（案）
- 中学校再編後の学校規模
- 小学校再編後の学校規模
- 小・中学校再編までのスケジュール案

資料を基に上記の項目等について説明

（５）質疑応答

（６）意見交換

（７）閉会

6 質疑応答・意見交換の内容

（1）質疑応答

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	発言内容
参加者	最後に提示されたスケジュール案を見ますと、令和８年度に「方針決定」、令和９年度に「合意形成」と書かれております。今日の冒頭では「決定事項ではなく、あくまで検討のための案である」とご説明いただきましたが、この紙面を見ると今年度中（令和８年度中）にもう決定してしまうのではないかと受け取れます。もう少し地域住民や保護者の声を聞き、話し合いを深める期間が必要ではないかと思いますが、スケジュール感についてどうお考えでしょうか。
事務局	現在お示ししているスケジュール案は当初からの目標として掲げているものです。今回の地区意見交換会をはじめとする皆様からのご意見を踏まえ、再度検討協議会に諮ることとなります。協議会で合意に至らない場合は、期間を延長してさらに話し合いを重ねることもありうると考えております。
参加者	小学校は令和 14 年度に統合という予定案が示されていますが、今後児童数がさらに減り、同学年が 1 人しかいないような状況になった場合、親としては「それなら最初から統合先や市内の他校に通わせたい」と考えるケースも出てくると思います。もし予定年次より前に全校児童が極端な少人数になった場合でも、令和 14 年度まで米水津小を存続させる方針なのでしょうか。
事務局	児童数が予測以上に大きく減少し、学年で 1 名のみとなるなど、保護者や地域から「もっと早く統合してほしい」という前倒しの要望が出た場合には、計画年度にとらわれず個別に柔軟に対応・協議してまいります。
参加者	現在利用している放課後児童クラブについて、学校が統合された場合どうなるのか教えてください。
事務局	放課後児童クラブにつきましても、学校がなくなったからといって直ちに地

	元の児童クラブを廃止するとは考えておりません。統合先の学校からスクールバス等で米水津の児童クラブまで送迎するなどを含め、担当課（こども福祉課）と協議を進めてまいります。
参加者	放課後児童クラブについては、現時点では「学校が統合されても、米水津の児童クラブをそのまま残し、学校からバスで送って利用する」という方向で検討していると捉えてよろしいでしょうか。
事務局	学校が統合したからといって児童クラブまで閉鎖するという考えはございません。基本的には現在ある地元の児童クラブに通っていただけるよう送迎を含めて検討しております。ただし、実際の利用児童数や「統合先（受入校側）の児童クラブを使いたい」という保護者ニーズの割合なども関係してまいりますので、今後の状況を見ながらこども福祉課と詰めてまいります。

（２）意見交換

※個人が特定されるおそれのある発言等については、個人情報保護の観点から、一部を編集・省略して掲載しています。

発言者	**発言内容**
参加者	学校がなくなることでこの米水津地域全体の活力が失われてしまうのではないかと危惧しております。市として移住定住を促進している中で、地域をどう活性化し支えていくのか、行政として考えていただきたいです。
参加者	学校再編に関するアンケートの回答率が 44.4%にとどまっており、少し少ないのではないかと感じております。中学校では地域の方々と実習などを通じて深く交流させていただき、今の中学校・地域だからこその大変良い経験を積ませていただいております。統合によって、そうした地域の方々との温かい交流や実習の機会がなくなってしまうのではないかと、寂しく感じております。地域の活性化という面を考えましても、子どもと地域住民との触れ合いが薄れていってしまうのではないかという不安があります。小規模校で人数は少ないですが、少人数ならではの良さもたくさんありますし、子どもたちも毎日楽しく学校に通っております。

参加者	通学は毎日のことであり、基準として「片道 1 時間以内」と示されておりますが、現場の実態を考慮すると強い懸念があります。現在、間越地区から米水津小・中学校への送迎は、片道 20 分強を要しております。ここからさらに統合先である上堅田小学校まで通うとなると、乗車時間は 1 時間近くに及ぶことが見込まれます。また、同地区の坂道等は大型スクールバスの進入が難しく、乗り換えの要否も含め児童への心身・体力の負担が懸念されます。また、雨天時に保護者が自家用車で送迎する際、受入校周辺で路上駐車が発生し近隣住民への迷惑となる恐れもあります。子どもたちの健康状態や受入地域の生活環境にも配慮した具体的な通学対策を求めます。
参加者	旧町村から学校がなくなると確実に地域は寂しくなります。学校の適正規模の基準についても、郡部の実情に照らして本当に妥当なのか疑問があり、もう少し小規模でも柔軟に維持できる基準を検討すべきです。また、小規模特認校（本匠）では児童数が増加傾向にある実態を踏まえ、市内 1 校に限らず、山だけでなく「海の小規模特認校」や「街の小規模特認校」など多様なニーズに応じた複数校の指定を検討していただきたいです。「いつもこどもがまんなか」という市長の理念に立ち返り、各地域の子どもたちを中心に据えた柔軟な判断をお願いします。令和 14 年開校ありきではなく、今後も地域で十分に対話を重ねる時間と場を確保していただくよう求めます。
参加者	米水津では学校と地域が一体となり、この会場でも児童・生徒と一緒に防災キャンプや避難訓練に取り組むなど、学校と地域が共にある環境を守ってきました。約 10 年前に色宮小学校と向陽小学校が統合して米水津小学校になった際も、学校の近くに住む者として、子どもたちの声やチャイムの音が消えてしまった時の地域の寂しさは身に染みて感じております。地域にとっては統合というのは非常に寂しいことだと思いますが、まず子どもたちのことを一番に考えて進めていただければと思います。児童・生徒数の減少を踏まえると再編自体はやむを得ない面もあると受け止めておりますが、進めるのであれば「統合して良かった」と地域や子どもたちが実感できる良い再編にしていただきたいです。現在の案に限らず、小規模特認校のような柔軟なあり方も含めて検討していただき、丁寧な説明と対話を重ねながら納得のいく統合を目指していただくようお願いします。
参加者	遠方からの車やバス通学では、放課後に近所の友達と遊ぶことが難しくなる懸念がありました。子どもたちが自力で歩き、雨風に負けず仲間と登下校することは、心身を鍛え成長する大切な経験であり、子どもが地域を歩く姿そ

	のものが地域にとっても大事な風景だと感じております。また、身近に学校があることで、親が気軽に様子を見に行き、先生や保護者同士が顔を合わせて対話できる良さもありました。学校が遠方になれば、親から子どもの様子が見えにくくなる不安がさらに募ります。統合を進めるにしても、一気に市内中心部へ行くのではなく、診療所のようにまずは隣接する鶴見地区など近場と段階的にまとまる形も考えられたのではないかと思います。先ほど出た柔軟な統合案や議論の継続を求める意見に賛成です。
参加者	親の立場、個人としては反対なのですが、子どものことを考えれば仕方ないかなという気持ちはあります。子どもに話を聞いたところ「統合は嫌だ」と言っていました。米水津の環境が好きな子どもにとって、急激に大人数の集団に入ることへの不安は大きく、環境に馴染めない恐れもあるため、子どもの気持ちを汲んで慎重に進めていただきたいです。また、佐伯南中学校や上堅田小学校周辺は大雨時に冠水する箇所もあるため、災害発生時に米水津から迎えに行けるのか非常に心配です。さらに、間越、宮野浦、小浦などの遠隔地ではスクールバスの乗車時刻がかなり早朝になると予想されます。特に小学校低学年が早起きして朝食を食べ、登校準備を整えるのは大変であり、朝食も摂れずに登校するような生活リズムの乱れも懸念されます。災害時の対応や子どもたちの健康・生活実態まで十分に配慮した検討をお願いします。
参加者	現在の案では上堅田小学校校舎へ一気に 5 校（米水津・鶴見・木立・下堅田・上堅田）が統合する形になっていますが、少人数校ならではの良さもある中、急激に大人数の環境へ移ることは子どもたちにとっても大きな不安となります。例えば「米水津・鶴見・木立」といった地理的に近く規模感も似ている周辺校同士でまとまるなど、現行案と段階的に統合する案の「2 つの選択肢」があってもいいのではと思います。また、間越地区など遠方からの通学は早起きによる子どもや保護者への生活負担が大きくなります。遠方地区については一般ルートと分けた別便（直行便）を運行するなど、柔軟な運行体制を検討していただきたいです。
参加者	保護者アンケートだけでなく、子どもからアンケートを取る機会を設けてほしいです。親の意向だけでなく、子どもたちが統合に対してどう感じているのか、それも 1 つの目安にしていただけたらなと思います。また、複数の再編案（近隣校同士の統合案など）を提示した上で、改めて保護者や地域住民にアンケート等を実施していただきたいです。

参加者	少人数の温かい環境から急に大規模な学校へ移ることによる子どもの環境適応の負担は非常に大きいです。急な統合ではなく、統合前の 1〜2 年間で相手校との交流行事を定期的に行っていただきたいです。統合するのであれば、子どもの気持ちに十分配慮していただきたいです。
参加者	米水津の文化発表会や防災活動などの地域イベントは、小・中学校の先生方や児童・生徒の全面的な参加と協力があって初めて成り立っております。学校が地域からなくなってしまうと、そうした伝統ある地域行事自体が衰退し、開催できなくなる恐れがあります。もし学校が統合されたとしても、学校の中に旧町村ごとの「地域担当の先生」を置いていただくなど、統合後も地元の子どもたちと地域行事が継続して行えるような仕組みづくりを行っていただきたいです。